

法学研究科博士後期課程 カリキュラム

- 1、広い視野と多面的・多角的な視点から独創的な研究を行い、その研究成果を国内外に発信できる優れた研究能力を身につける。
また、高度専門職業人となりうる精深で豊かな学識を身につける。
- 2、幅広い視野から自己の研究を位置づけて、常に進取の精神をもって未踏の分野に挑戦し「知の体系」を創造する素地を形成する。
- 3、高い倫理性と強い責任感をもって、自らの研究が人や自然との調和ある共存にかなうものであるかを絶えず吟味する力を身につける。



3年次

博士論文

当該専門分野における高度の学術的意義、新規性、創造性および論理的整合性等を備えた論文の作成。



学位申請予備審査



2年次

開講科目からの12単位以上の修得
(正指導教授の担当科目から4単位以上)

- * 社会人特別選考による入学者は、単位取得不要
- * 法科大学院修了後の入学者は、在学期間2年以上、8単位以上の修得で足りる。

1年次

専門研究分野 各分野において多くの科目(講義科目・特別演習)が開講される。

基礎法学

公法

民刑事法

政治学

その他、専門研究分野を定めない特別演習、特別科目(英語による授業や、法科大学院からの進学者向けの外国法科目など)が開講される。

指導教授による研究指導

進学者・編入学者には、修士課程または専門職学位課程修了相当の学識を有することに加えて、法学政治学の原理的問題と現代社会への関心をもって、専門分野における高度の研究を遂行するための能力が求められる。